



社会福祉救済復興省大臣への事業紹介（ミャンマー）

Introducing the project to Minister of Social Welfare, Relief and Resettlement (Myanmar)

# Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

## ● Table of Contents Vol.72 (Sep. & Oct. 2019)

- ・ ミャンマー : ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業、百葉箱（気象観測機器）の設置による気象情報理解の促進
- ・ フィリピン : 学校での防災教育の推進、セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・ バングラデシュ : 災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業
- ・ 日本 : 中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業
- ・ 講師派遣
- Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township, Enhancing Understanding of Weather Information by Installation of Stevenson Screens and Weather Observation Devices
- Philippines : Promotion of Disaster Education of Schools, Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Bangladesh : Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses
- Japan : Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City
- Delivery Lecture



**特定非営利活動法人SEEDS Asia**

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)

Web : [www.seedsasia.org](http://www.seedsasia.org)

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>



ミャンマー

## ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

### 【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

#### ●レチョン村郡代表者ら「防災リーダー」育成トレーニングの開始

ナバーゴン村を含むレチョン村郡には14村の村があり、堤防を隔て内側と外側に存在しています。ナバーゴン村と周辺13村の村長や村の開発委員会委員長、学校の教員代表者など一村当たり3名ずつを対象として防災リーダー研修を開始しました。9月から10月の間には下記3種類の研修を実施しました。研修を通じ、洪水常襲地の広い範囲で災害対応能力の強化が必要であることが認識されました。また、ナバーゴン村小学校に今年度新たに新任でやってきた教員は、研修後の効果を測るテストで最高得点



防災リーダーへの研修の様子

日程	トレーニング内容
9/17~19	コミュニティ防災／導入研修
9/30~10/1	応急処置研修
10/2~3	水と衛生研修

を獲得し、「学校兼シェルターとして地域の防災を担うこの学校で貢献できるよう、これからの研修も頑張っていきたい」と意欲的なコメントを伝えてくれました。

#### ●レチョン村郡における災害リスク調査の実施

10月6日、ヒンタダ県統括官の多大なるご協力を得ながら、京都東ロータリークラブとヤンゴンロータリークラブメンバーと共に、レチョン村郡のコミュニティリスク調査を実施しました。レチョン村郡はナバーゴン村を含め14村ありますが、ナバーゴン村周辺の災害リスクを知り今後の改善点を見出すため、本調査ではナバーゴン村以外の13村を対象としました。それぞれの村は距離的には数キロ程度の違いしかありませんが、その歴史、人口動態、地理的な条件、水資源とその質等、様々な多様性に富んでいることを改めて認識する機会となりました。

#### ●国際防災式典への参加



ヤンゴンでの国際式典の様子

国連防災機関(UNDRR)が提示した2019年度の国際防災式典のテーマは「BUILD TO LAST」。仙台防災枠組みで掲げられた7つのターゲットのうち4番目にあたる「重要インフラの損害を減らす」に関連し、学校兼シェルターの建設を実施するSEEDS Asiaにとっても大変重要なテーマです。国際防災式典は国連より2010年に採択されて以来、ミャンマーでも展開されるようになり、SEEDS Asiaは9年連続で出席してきました。今年度はネピドーと経済・文化の中心地であるヤンゴン、エヤワディ地域の中心地であるパテインの3か所にて会合にそれぞれ出席し、事業成果の普及と協力関係の強化に努めました。ネピ

ドーでの式典では、国家顧問であるアウンサンスーチー氏が冒頭あいさつにて、ミャンマー国内における災害被害件数の増加に伴い、ますます災害リスクの削減への努力が必要になることを述べられ、国家的なコミットメントが高く示された会合となりました。



ミャンマー

## 百葉箱（気象観測機器）の設置による気象情報理解の促進

【京都東ロータリークラブ】

### ●気象観測機器の搬入・設置・観測チームへの研修

京都東ロータリークラブの皆様より、気象の理解促進と村内の早期警報を目的とする気象観測機器・百葉箱セット6基を寄贈頂きました。第1基目は現在外務省事業を実施中のナバーゴン村の学校兼シェルターに設置し、9月11日には学校の先生を中心とする観測チームを発足させ、観測機器について学ぶセッションを行いました。なんとなく感じていたことを数値化できることのおもしろさを知ってくれたようで、始終興味深く学んでくれました。これから継続していく観測活動を通じて、①雨量や風速、気圧等、天気予報で伝えられる用語をより理解し、②地域独自の気象のインパクトと観測結果の関係性を把握し、③危険を予測・察知し緊急時の対応に役立てることを目標として、子どもたちと一緒に1日3回早速観測をし、観測チームから村長を始めとする村の防災委員会の方々にも共有する仕組みがつけられました。



気象観測機器について学ぶ教員ら

尚、寄贈式典は機材をご提供頂いた京都東ロータリークラブの訪緬団がお越しになる11月に開催される予定です。ここに改めて京都東ロータリークラブの皆様にご感謝申し上げます。



フィリピン

## 学校での防災教育の推進

【日本アセアン統合基金プロジェクト】

### ●教員研修セミナー実施



教員によるアクションプランづくり

10月21日から22日にかけて、マニラ首都圏マカティ市の防災管理局職員をはじめとした防災啓発プロジェクトチーム、教育省、ASEAN、アジア防災センターの協力のもとに、マカティ市内の教員を対象にした研修セミナーを実施しました。研修にはマカティ市内の各学校から指導教諭と理科教諭、学校防災管理コーディネーターが招へいされ、「防災の基礎知識」「マカティ市内のハザード」という講義や、各災害のメカニズムやインパクト、対策について、ポスターや模型を用いた説明を受け、その学びを踏まえた模擬授業を実施しました。その後、各学校で実践したい防災力向上に向けたアクションプランもつくられ、今後はマカティ市役所と教育省がアクションプランに基づく学校での防災の実践をモニタリングします。

### マカティ市で使用される災害模型の紹介

10月21日から22日にかけての研修で使用した、マカティ市移動式防災教室に乗せる災害模型の更新版は、日本の支援者の方のご寄付を活用し、フィリピン人建築家の方々が数か月かけて作製して下さったものです。災害のメカニズムや影響、対応策などを示すことができる災害模型はとても効果的な教材ですが、作製には技術と忍耐、多大な調整が必要です。建築家、マカティ市役所、そしてSEEDS Asiaの度重なる協議の結果、素晴らしい模型が完成しました。ご協力下さった方々に、改めてお礼を申し上げます。



模型を用いて耐震について説明する教員



フィリピン

## セブ州における学校の防災管理推進支援事業

### 【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

#### ●本邦研修

9月2日から6日にかけて、パイロット地区の学校ガバナンス運営部長を対象に本邦研修を行い、兵庫県の防災管理に関する知見の移転を図りました。セブ市防災管理局からの自費参加者を含む7名が参加し、兵庫県教育委員会による講義や意見交換、避難訓練の視察、取り組み持続のための人材育成計画の作成に参加しました。参加者は研修を振り返り、「日本のいいところは、過去の災害から、子どもたちへのいのちの大切さ、共助の重要性、ボランティア活動の意義を教え込んでいること」、「日本人は、防災管理を率先して推進、モニタリングし、改善している。災害に備えるために、専門家と防災の推進を担う人材 推進員が連携し、教員やスタッフに研修を行っている。全員がどんな危機に対しても責任を持って行動している」などと述べました。セブ州と兵庫県との違いを認識した上で、継続した学校防災管理の展開に必要な情報が参加者に伝わったと言えます。



視察先の南あわじ市立福良小学校にて市の模型を見学する視察団ら

9月から10月にかけて、下記の日程にて各パイロット校がそれぞれ異なったハザードに対する総合防災訓練を実施しました。これにて、先月までに訓練を行った3校と合わせ、全パイロット校10校にて訓練が終了しました。教育省地区事務所防災管理コーディネーター、地方自治体防災管理局、コミュニティ、警察、消防が参加し、訓練終了後には、ステークホルダーと振り返りを行いました。

#### ●7パイロット地区での総合防災訓練

9月から10月にかけて、下記の日程にて各パイロット校がそれぞれ異なったハザードに対する総合防災訓練を実施しました。これにて、先月までに訓練を行った3校と合わせ、全パイロット校10校にて訓練が終了しました。教育省地区事務所防災管理コーディネーター、地方自治体防災管理局、コミュニティ、警察、消防が参加し、訓練終了後には、ステークホルダーと振り返りを行いました。



ダアンバンタヤン町での避難訓練の様子

実施日	パイロット区	学校	ハザード
9/19	ダナオ市	ベアトリス D. デュラノ記念国立高校	雷雨・トルネード
9/20	タリサイ市	タブノック中央小学校	火災
9/23	セブ州ダアンバンタヤン町	ダアンバンタヤン中央小学校	高潮
9/25	セブ市	セブ市中央小学校	爆破予告
10/8	ラブラブ市	マリゴンドン国立高校	地震、火災、自動車事故
10/14	ナガ市	ウリング小学校	土砂災害
10/29	カルカル市	カルカル市中央小学校	洪水

訓練後には全校にて児童生徒と教員にインタビューを行いました。ダナオ市ベアトリス D. デュラノ記念国立高校の生徒は、「パニックにならず、他の生徒を押し寄せずに避難できましたか?」と訊ねると、2年生と3年生の生徒が、「地震を再現した音響で、実際の災害のように感じたが、学校に教えられた通り落ち着いて避難できた」と答えました。また、ダアンバンタヤン中央小学校の教員への「訓練開始時の優先事項は何でしたか?」という質問に対し、「児童の安全が常に確認されていること。前もって対策を準備していた」と述べるなど、児童生徒と教員が避難の対応手順を理解していることが実感できました。



ナガ市地区での避難訓練の様子



バングラデシュ

## 災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業

### 【世界銀行都市強靱化プロジェクト】

ダッカ市職員向け災害対応研修実施を通じ、災害対応ウェアハウスの有効的な運用を促進します。

#### ●職員向け防災研修と火災の安全対策を示すビルの模型制作

SEEDS Asiaが6月よりコンサルタントとして関わっている世界銀行都市強靱化事業では、ダッカ市内8つのゾーンに設置された災害対応ウェアハウスにて職員向け防災研修を実施するとともに、職員や住民が防災情報や知識を得られるよう学習資料を作成しています。ダッカ市では火災が大きな問題となっており、市はビルの火災安全対策啓発に取り組んでいることから、現在ビルに設置すべき各種防火・消火設備を示したビルの模型を制作中です。ダッカでは、非常口や消火器、火災報知器など、基本的な設備さえも備え付けられていない建物が非常に多くあり、被害を大きくする原因となっています。模型を通して、北ダッカ市職員はもとより、模型を目にした市民がビルの火災対策について知識をつけることを狙いとしています。



火災安全ビルの模型について話し合う市職員

模型制作と並行し、北ダッカ市と南ダッカ市の災害対応ウェアハウスにてゾーン事務所の職員向け防災研修も引き続き実施しています。9月～10月には7つの研修を実施、約150名が参加しました。多くの場合ウェアハウスはゾーン事務所に隣接して建設されていますが、常駐の職員はおらず、適切なメンテナンスが課題となっていますが、中には、研修後に定期的にウェアハウスを訪れて各種資機材の確認をするゾーンや、ウェアハウスのミーティングスペースを利用してスタッフ向け研修を実施するゾーンなど、ウェアハウスを積極的に利用する動きが見られるようになりました。

#### ●国際防災の日



防災コミュニティネットワークによる国際  
防災の日ラリー

毎年10月13日は国際防災の日です。この日は、災害の防止と縮小、そして、災害を減らす動きを世界共通の文化として広めるため、国連総会によって制定されました。ダッカでは、国際防災の日を祝い、10月15日にSEEDS Asiaの先行事業を通して生まれた防災コミュニティネットワーク、Durjoge amraa urban platformが防災意識啓発ラリーを実施し、市内各地のコミュニティより約50名が参加しました。ラリーでは、建築基準に沿った建物の建設や、各家庭での防火、また、今年も猛威を振るっているデング熱対策のため、コミュニティ一丸となって環境整備に取り組むことが強調されました。また、10月13日には防災省が開催したイベントにSEEDS Asiaも

ブース出展し、ダッカでのコミュニティ防災の取り組みと成果を伝えました。今年のイベントにはハシナ首相も出席し、各ブースをまわって出展者を激励しました。

#### ●防災コミュニティからの知らせ

今年4月に終了した北ダッカ市でのコミュニティ防災事業（JICA草の根技術協力事業）にて防災活動をはじめたコミュニティのひとつ、パイクパラコミュニティより嬉しい知らせがありました。同コミュニティは事業終了後も活動を続けていましたが、今回、災害時に有用で安全な場所をより多くの住民に伝えるため、防災リーダーが中心となり、コミュニティの地図とタウンウォッチングの結果を人通りの多い通りの壁に描き示しました。意図的に危険な場所を描くのは避けたとのことですが、コミュニティの事務所を地図上に示し、詳しい情報は事務所にて得られるようにしているとのことでした。



パイクパラコミュニティによる、壁に描かれたタウンウォッチングマップ



日本

## 中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業

【ひょうごボランティア基金など】

丹波市の豊かな自然の恵みと災害からの復興過程で得た教訓を次世代に伝え、災害を生き抜く力を育みます。

### ●地元住民主権のイベントへのご案内

5月に開催した田植えで植えた稲が収穫の時を迎えました。しかし、9月23日に予定していた稲刈りイベントは台風で延期となり、延期後の9月29日も雨の予報のため中止となりました。せっかくご参加を検討して下さいました方には申し訳ありませんでした。

そこで、稲刈りイベントの主催者である地元住民グループのぼんぼ好（ぼんぼこ）さんをご厚意で「10月20日に開催するイベントに来てもらえたら、新米と安納芋をプレゼントしたい」とお声がけ下さり、稲刈りにお申込頂いていた2組の家族が丹波市を訪れ、栗や枝豆の収穫を体験しました。このイベントは「ウキウキうまい秋」と呼ばれ、2014年8月の豪雨災害時に炊き出しをおこなった複数のグループが、災害から3か月経った頃に「ちよつとこころでひと休み」と開催した労いの会を由来とし、毎年秋に開催されているものです。



安納芋の収穫の様子

丹波市の次のイベントは、12月15日の植樹祭と、12月22日のしめ縄づくり、そして12月30日の餅つきです。植樹祭は災害に強い森づくりに取り組む北岡本自治会のイベントで、整備を進めている作業道に沿って、落葉樹（紅葉）を300本植えます。木の傍に参加者の名前を残せるので、木々の成長を楽しみにすることができます。また、しめ縄づくりや餅つきでは、5月の田植えで植えたもち米の稲と米を使います。身体に優しく美味しい材料を使って、伝統行事を楽しみましょう！

植樹祭イベントページ: <https://iko-yo.net/events/209597>

餅つきイベントページ: <https://iko-yo.net/events/209603>

## 講師派遣

SEEDS Asiaが事務所を開設したアジアの活動拠点ネットワークは10か国13か所に及び、現在はミャンマー、バングラデシュ、フィリピンに駐在事務所を置き、現地スタッフと現地カウンターパートと共に、災害に負けないまちづくり・人づくりに向けた事業を展開しています。緊急支援に留まらず、災害被害を生み出す当該地域固有の社会背景に迫り、次の災害に向けたリスクの削減に地域や学校と共に取り組むアプローチは、地域の子カラやつながりを促進し、レジリエンスを高める活動として注目されています。「伴走型」とも呼ばれる草の根で一緒に取り組む支援を通じて生み出された成果と、蓄積されたノウハウを共有して欲しいといった研修依頼を多く頂くようになりました。10月には、各地に講師を派遣し、活動の紹介や研修を国内で実施いたしました。

講師派遣のご依頼を頂ける方は、[講師派遣依頼フォーム](#)をご記入の上、是非rep@seedsasia.orgまでご連絡をお願い致します。

### ●防災の日「喜楽会」への参加と防災啓発活動



久元神戸市長とSEEDS Asia大津山事務局長

1923年に発生した関東大震災にちなみ、9月1日は日本の防災の日となっています。同大震災から96年目を迎えた9月1日、久元喜造神戸市長を囲む女性120人が集まる「喜楽会」に招待頂き、講演の機会を頂きました。2020年には阪神大震災から25年を迎え、改めて防災について考え備える機会に、とSEEDS Asiaのシニアアドバイザーでありシマブンコーポレーションの島田会長にお声がけいただき、「神戸の市民力をアジアに」と題して活動を紹介いたしました。

自助・共助の子カラが強く、山と海が近く豊かな自然がありながらも陸・海・空のアクセスがある、便利で貿易港として歴史のある国際的なまち。魅力あふれるこの神戸のまちで生まれ育った団体として、これからも包括的な防災支援に取り組んで参ります！

## 講師派遣

### ●第6回アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム教員研修会

9月16日～18日にかけて、宮城県気仙沼市にて、第6回アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム教員研修会が実施されました。本研修会は、全国から選抜された小中高校の教員が、気仙沼市における東日本大震災の経験・教訓から減災教育を学び、各校での実践に繋げるプログラムの1つです。SEEDS Asia理事であり東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員の及川幸彦先生がコーディネーターとして本研修のプログラム構成に携わり、SEEDS Asiaアドバイザーであり新潟大学工学部工学力教育センター准教授の上田和孝先生及びSEEDS Asiaスタッフが研修協力、ファシリテーターとして参加しました。研修では、気仙沼市立階上中学校の生徒による小学生への防災授業を参観し、参加者は「防災意識の高い子どもたちが育っている気仙沼市の防災教育に倣いたい」と意欲を高めました。この場をお借りして、毎年この貴重な機会にお招きくださるアクサ生命保険株式会社様と日本ユネスコ協会連盟様に心より感謝申し上げます。



参加教員と階上中学校の生徒たちによる意見交換

### ●公共財団法人国際交通安全学会(IATSS)主催 ASEAN若手メンバー向け持続可能な社会づくりに向けた防災研修



研修参加者との集合写真

10月10日、公共財団法人国際交通安全学会（IATSSフォーラム 三重県鈴鹿市）主催によるASEANメンバー国とインドから選抜された若手を対象とする研修会で、事務局長の天津山光子が講師を務めさせていただきました。

海外からの研修生の多くが、日本で学んだことを自分の国で活かそうとする時に、様々な壁にぶち当たります。そんな「アジアのあるある」現実を想定しながら、講義だけでなく演習と事例紹介を通じて考えてもらうセッションとしました。防災の視点を取り入れた持続可能な社会づくりのヒントになれば嬉しいです。

### ●近畿小学校家庭科教育研究会でのゲストティーチャー参加

10月25日、掲題研究会の第49回京都大会が京都市立高倉小学校で開催されました。同校の校長を務めておられる岸田蘭子校長先生は、インド・バラナシ事業やミャンマー・ヒンタダ事業で現地に専門家としてご訪問いただいております。地域ぐるみの学校づくりについてご講演下さってきた方です。こうした継続的なつながりから、家庭科授業に組み込まれた防災教育の授業にSEEDS Asiaの天津山光子と中川裕子が、ゲストティーチャーとして参加させていただき、6年生の家庭科の授業「みんなは地域の宝物」の単元のサポート役として子どもたちとの交流の機会をいただきました。同授業は、地震が発生し子どもたちが家族と一緒に避難所にいることを前提として、まず季節や避難日数で変化していく困難について想定し、その中で自分ができることをグループワークで考え話し合い、発表するというものです。子どもたちは6班に分かれ、行政や団体など防災専門家が各グループに1人ずつ入り、アドバイスや経験談を交えつつ話を膨らませるという役割を担いました。活発な議論の中から①災害に役立つものを準備しておく②自分で考えて行動する③みんなのことを考える、という3点が重要であることが導き出されました。授業の総括では「じゃあ、今日からできることは？」という先生の問いに対し、「避難所では地域の人たちと助け合うことが必要だから、普段からご近所の方々に挨拶をして仲良くなっておく」という意見が多く出されました。学校教員だけではなく地域との連携があってこそ成り立つ授業の展開で、アジアの事業地でもいつか実現できればと思います。

ここに改めて貴重な機会をいただいた高倉小学校の岸田蘭子校長先生に御礼を申し上げます。

## 講師派遣

### ●JICA技術協力プロジェクトの本邦研修及び課題別研修での講義

日本公営株式会社によるJICA技術協力プロジェクト「ケニア国 トゥルカナ持続可能な自然資源管理及び代替生計手段を通じたコミュニティのレジリエンス向上プロジェクト」の一環として実施された本邦研修の内、10月24日午前の講義を担当させていただきました。同本邦研修は、北部ケニアトゥルカナ郡における干ばつに対するコミュニティのレジリエンス向上を目的として、同郡内省庁政府職員が訪日し防災活動を学ぶというもので、SEEDS Asiaは「海外のコミュニティ防災」についての共有が求められていました。そこで、同研修では事務局長の大津山光子よりアジアの様々な防災活動とその手法や効果、さらに国を越えて共通する様々な課題とその解決方法について参加型の講義を通じて紹介しました。

主催者側のご担当者からは、「ケニアの人々は、防災支援という政府がするものという意識が強く、コミュニティの住民自身が行うコミュニティ防災活動という概念は非常に新しいもので講義中にご紹介いただいたSEEDS Asiaさんの活動は、ケニアの皆さんには非常に貴重な情報でした。」との感想をいただいています。アジアの中でも「コミュニティ」の概念はそれぞれ異なることが多いのですが、水の確保が困難で、狩猟民族が暮らす地域からの参加者がコミュニティマップを描く様子を見てみると、300キロ四方のエリアに及ぶケースも少なくなく、農耕ベースのコミュニティが多いアジアの感覚からはやはり新しいものでした。「コミュニティ防災」の複雑性を体現している一方、こうした地域でも、過去の災害が歌や踊りを通じて伝承されていることは大変興味深く、先人が教訓を次世代に伝えようとする姿に人類としての共通性を感じる機会にもなりました。



講義の様子



研修参加者との集合写真

加えて10月30日には、神戸市消防局が実施、公益財団法人神戸国際協力交流センターが企画されている2019年度JICA課題別研修「コミュニティ防災」がJICA関西で実施され、事務局長の大津山光子が講師として参加しました。「コミュニティ防災一つながるチカラの再発見」を題名として午前の講義を担当し、コミュニティ防災の実施に欠かせない基礎ツールの紹介をしながら課題発見やその解決に向けた手法を紹介いたしました。

貴重な機会を頂きました日本公営株式会社様、神戸市消防局様並びに神戸国際協力センター様に心より感謝申し上げます。





Myanmar

## Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township 【 Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) 】

### ● DRR Leaders Training for Representatives from Leikchaung Village Tract

Leikchaung Village Tract consists of 14 villages including Nabekone village across both sides of a river dike. DRR leaders training has been started with three people from each village: the village heads from 13 villages around Nabekone Village, the chairpersons of Development Committees and representatives of teachers. Three types of training were conducted from September to October as below. Participants realized the necessity of building capacity of DRR in flood-prone area extensively through the training. A teacher who has been newly assigned to Nabekone Village Elementary School this year, and scored the



DRR leaders training

Date	Training
9/17-19	CBDRR introductory training
9/30-10/1	First aid training
10/2-3	WASH-PHAST training

highest mark in the test which measures the effectiveness of the training, got motivated and said “I am willing to work hard on coming trainings to contribute to this school which plays a big role in DRR in this community as a school-cum-shelter.”

### ● Disaster Risk Survey in Leikchaung Village Tract

On 6th October, thanks to the great administrative supports from the Commissioner of General Administration Department of Hinthada District, a series of community assessments in Leikchaung Village Tract with Rotary Club of Yangon and Rotary Club of Kyoto-East was conducted for project development in coming years. The target areas for the assessment were 13 villages out of 14 in Leikchaung Village Tract aside from Nabekone Village to find the hazard risks for further improvement in the area. Each village is only 2-3 km away from others, however the research team felt the villages have rich diversities in terms of history, demography, geographic condition, water quality/quantity and accessibilities during the survey. We hope we can find out the effective solutions for the issues and difficulties they face for making resilient community through coming project.

### ● Ceremonies of International Day for Disaster Reduction in Yangon, Nay Pyi Taw and Patheingyi



Ceremony of International Day for Disaster Reduction in Yangon

The theme of the ceremonies of International Day for Disaster Reduction in 2019 presented by UNDRR was “BUILD TO LAST”. Regarding the 4th target from the seven global targets endorsed by The Sendai Framework for DRR - “Substantially reduce disaster damage to critical infrastructure”, the theme is also important to SEEDS Asia who commits to the construction of school cum shelter. Those ceremonies in Myanmar have taken place since it was adopted by UN in 2010, and SEEDS Asia has attended those events for the past nine years in a row. This year, SEEDS Asia attended the ones held in capital city, Nay Pyi Taw; Yangon which is the center of economy and culture; and Patheingyi which is the central area of Ayeyarwady Region

for dissemination of achievement of SEEDS Asia’s project, and strengthening the partnership with each stakeholder. The ceremonies were opened with a speech of Her Excellency Aung San Suu Kyi, State Counsellor with high level of commitment as a nation: “Efforts toward disaster risk reduction is indispensable since damage from disasters in Myanmar increases day by day”.



Myanmar

## Enhancing Understanding of Weather Information by Installation of Stevenson Screens and Weather Observation Devices 【Rotary Club of Kyoto-East】

### ● Installing Stevenson Screens and Weather Observation Devices

Rotary Club of Kyoto-East donated six sets of Stevenson Screens and weather observation devices to Myanmar! These are to be utilized for enhanced understanding of weather and establishing early warning. The first set has been installed in the school-cum-shelter within Nabekone Village along with a session to learn about those devices for the persons in charge of recording. The village residents are interested by how something they feel daily can be quantified using these devices. They, including the children, have already started observation three times in a day in order to understand the weather forecast better and possible risks before anything occurs through establishing a communication group in SNS! Rain gauges will also be installed in October, followed by a turn-over ceremony in November when the delegation of donors from Rotary Club of Kyoto-East visits there. We would like to take this opportunity to express our gratitude again to the people of Rotary Club of Kyoto-East.



Teachers learning how to use the devices



Philippines

## Promotion of Disaster Education of Schools 【Japan-ASEAN Integration Fund Projects/General Donation】

### ● Teachers' Training Seminar for Teachers in Schools in Makati City



Action planning by teachers

On 21st and 22nd October, a teachers training seminar was conducted in Makati City in cooperation with the technical working group formed by Makati City Disaster Risk Reduction and Management Office and other city officials, Department of Education, ASEAN, and Asian Disaster Reduction Center. Guidance teachers, Science teachers and School Disaster Risk Reduction and Management Coordinators from schools in Makati were invited, to be provided with lectures entitled "Basic DRR Concepts" and "Disaster Risks in Makati City" as well as detailed explanation of hazards' mechanisms, impacts and measures to be taken. Afterwards, the teachers were able to give mock

presentations (pilot classes) based on their quick learning, and worked on action planning for each school. The implementation based on the action plans will be monitored by the City Government of Makati. Thank you so much to all concerned for their supports and cooperation!

### Introducing Hazard Simulation Models for Makati City

The hazard simulation models used for the Makati City Mobile Knowledge Resource Center and in the teachers training seminar on 21st and 22nd October were made by Filipino architects, with the fund generously donated by a Japanese supporter. This kind of hazard simulation models are very effective in showing the mechanisms, impacts and mitigation measures of/to disasters, but are very hard to make, requiring a lot of skills, patience and coordination. After a series of discussions and improvements for months, the high quality models are now out to be presented for establishing resiliency in the communities! We would like to express our sincere gratitude to those who have cooperated.



Teacher explaining seismic mechanism with using the model



Philippines

## Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

### 【 JICA Grassroots Technical Cooperation Project 】

#### ● Japan Study Visit

From 2nd to 6th September, Chiefs of School Governance and Operations Divisions from different Schools Division Offices under Department of Education Region VII visited Japan for a study visit to learn from expertise of Hyogo Prefecture about School Disaster Risk Reduction and Management (DRRM). Seven participants including a self-funding participant from Cebu City DRRM Office visited to Japan. Participants underwent a meeting with Hyogo Prefectural Board of Education, an observation of a simulation exercise at a school, and a planning of capacity building for sustainability. Participants described in their daily journals that “What is good about Japanese is that from the lessons learnt they had experienced from disasters, they were able to instill into the minds of the children the preciousness of life, importance of mutual help and significance of volunteer activities.”, “They support, manage, monitor and improve the promotion of DRRM. They identified experts and promoters to train teachers and staff in the occurrence of calamities. Everybody is responsible for any crisis that occurs.” Participants addressed the differences of Cebu Province and Hyogo Prefecture, and understood necessary information to continue sustainable School DRRM.



Delegation visiting Minami Awaji Fukura Elementary School and learning about the City with a miniature model

#### ● Drills in Seven Pilot Schools

Seven Pilot Divisions conducted drills with the following schedule for different hazards, and with these all of ten Pilot Schools have conducted a hazard simulation exercise. DepEd DRRM Coordinator, Local Government Unit DRRM Office, Community, Philippine National Police, Bureau of Fire Protection participated. After each drill, the school evaluated the drill with stakeholders.



Drill at Daanbantayan Central Elementary School

Date	Divisions	School	Hazard
9/19	Danao City	Beatriz D. Durano Memorial National High School	Thunderstorm, Tornado
9/20	Talisay City	Tabunoc Central Elementary School	Fire
9/23	Daanbantayan -Cebu Province	Daanbantayan Central Elementary School	Storm surge
9/25	Cebu Province	Cebu City Central Elementary School	Bomb threat
10/8	Lapu-lapu City	Marigondon National High School	Earthquake, Fire, Vehicular accident
10/14	City of Naga	Uling Elementary School	Landslide
10/29	Carcar City	Carcar Central Elementary School	Flood

After the drills, SEEDS Asia conducted interviews to teachers and learners. Learners at Beatriz D. Durano Memorial National High School replied “Even though the drill seemed like real because of the angry background music, we managed to execute the evacuation procedure as advised by our school.”, to the question “Were you able to execute the drill without panicking or pushing other learners?” A teacher from Daanbantayan Central Elementary School replied “We make sure that the safety of our learners is being monitored. Precautionary measures were in place.” to the question “What was your priority action during the start of the drill?” These comments show that teachers and learners have understood response protocols of evacuation.



Drill at Uling Elementary School



Bangladesh

## Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses 【World Bank Urban Resilience Project】

### ●Fire Safety Building Models and DRR Training at Zone Emergency Warehouses

In our assignment under the Urban Resilience Project, alongside with conducting DRR trainings for city officials in zone offices, we are also developing DRR learning materials for city officials and citizens to get DRR information and knowledge. As fire has become a serious issue in Dhaka and the city corporations are working on awareness raising on building fire safety, we are making a miniature fire safety building models that demonstrate fire protection and firefighting facilities that a building should have. It is not uncommon to find a building that does not have any basic fire protection equipment such as emergency exits and signs, fire extinguishers, fire alarm, etc. in Dhaka and that causes bigger damage in case of fire. The models aim to raise awareness and educate people on building fire safety.



City officials discussing fire safety building model

We also continue DRR training for officers in zone offices in Dhaka North City Corporation and Dhaka South City Corporation. In September and October, seven training sessions were conducted and about 150 officials attended. In the some zones, they started regular check of the various equipment kept in the emergency warehouse, and utilize a meeting space in the warehouse for their internal programs. The emergency warehouses are built next to zone office in most of the cases, however, there is still no staff in charge and regular maintenance is a challenge.

### ●Observing International Day for Disaster Reduction



Rally to observe International Day for Disaster Reduction

Every year 13th October is set as the International Day for Disaster Risk Reduction. The day was enacted by United Nations General Assembly to promote a global culture of risk-awareness and disaster reduction. In Dhaka this year, Durjoge amraa urban platform, a DRR communities' network that was born through our community based DRR project, organized a rally on 15th October to observe the day. About 50 people from different communities in the city took part and emphasized to ensure safe building construction that follows the building code, fire prevention at every household, and environment management to fight against rampant dengue fever.

Also to celebrate the day, SEEDS Asia along with Durjoge amraa urban platform participated the event organized by Ministry of Disaster Management and Relief on 13th October to promote community DRR and introduce our achievements in the city. Prime Minister Sheikh Hasina was also present in the event this year. She visited the booths and encouraged those who work in DRR field to make the country resilient.

### ●News from a DRR Community

Good news from Paikpara community which we worked with in our previous community based DRR project (JICA grassroots project)! Paikpara community continues working on DRR after the project and this time they draw a big picture of their town watching map on a wall in their community area, aiming to provide information on safe places that can be used in disaster times to more people. They intentionally avoided specifying risky places on the map but indicated the location of their community office to make sure to provide detailed information at their office.



Town watching map on a community wall by Paikpara DRR community



Japan

## Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City 【Hyogo Voluntary Fund and others】

### ● Guiding Visitors to a Locally Organized Event in Tamba

Rice planted in May have grown so ready for harvesting. However, the harvesting event planned on 23rd September was postponed due to typhoon, and the one on 29th September was cancelled due to reportedly rainy weather. We apologize for the inconvenience to those who planned on participating.

Instead, the local group who was the organizer of the harvesting event (POMPOKO) invited those expecting to participate, to another event on 20th October. Two families were given newly harvested rice and sweet potatoes, and experienced harvesting chestnuts and edamame soybeans in addition to the event. This event is called “*Ukiuki Umai Aki* (directly translating, “Exciting Tasty Fall”)” whose origin is the recognition party held after months of serving free food to the disaster affected neighbors in August 2014. The event is held in fall every year.

Next events in Tamba are tree-planting event on 15th, *Shimenawa* on 23rd and rice-cake pounding on 30th December. The first is an event organized by a local residents group working on making their forests resilient to disasters. Participants will be provided deciduous trees (maple) along the walking paths in the forest. There will be names on the plates next to the trees, so the participants can look forward to the growth of the trees. The rice-cake pounding event will be using the rice planted back in May. This will be an exciting traditional event with the use of nice and tasty ingredients produced in Tamba!

Harvesting sweet potato “*Anno imo*”

## Delivery Lectures

SEEDS Asia has established 13 project offices in 10 countries, and now projects are ongoing in Myanmar, Bangladesh and the Philippines with SEEDS Asia local staff and counterparts to develop resilient communities. Our initiatives toward disaster risk reduction in cooperation with communities and schools through learning the unique social settings of each country, are worth looking into by not only emergency support but also developing the potential and connectivity in communities for enhancing resilience. SEEDS Asia receives many requests for lectures on its experiences and know-how developed together with communities through grassroots projects. From September to October, SEEDS Asia delivered lectures and trainings all over Japan based on initiatives of SEEDS Asia as below.

### ● DRR Awareness Activity at Kiraku-kai on Day for DRR in Japan



Mayor of Kobe City and Executive Director of SEEDS Asia

1st September is the Day for DRR in Japan in memory of the Great Kanto Earthquake which occurred in 1923. Kiraku-kai, gathering of 120 women surrounding Mr. Hisamoto Kizo, Mayor of Kobe City, commemorated the 96th anniversary of the earthquake, and SEEDS Asia was invited to deliver a speech. Mr. Shimada, a Senior Advisor of SEEDS Asia and Chairperson of SHIMABUN Corporation offered SEEDS Asia this opportunity to introduce its initiatives through the speech titled “Bring the civilian power of Kobe to the world” as an opportunity to think about DRR and prepare for the coming disasters in memory of the 25th anniversary of the Great Hanshin-Awaji Earthquake in the coming year, 2020. Kobe is a city with great capacity of self-help and mutual help surrounded by rich nature such as

mountains and sea with easy access to trains, ships and flights, as well as known as a historical international city as a port of trade. SEEDS Asia continues the committed initiatives on comprehensive DRR assistance as a NGO which was born and raised in this attractive city, Kobe!

## Delivery Lectures

### ●Sixth AXA UNESCO Association Disaster Risk Reduction Education (DRRE) Programme

On 16th to 18th September, training for teachers of the sixth AXA UNESCO Association Disaster Risk Reduction Education (DRRE) programme in Kesenuma City in Miyagi Prefecture was held. This training encourages elementary, junior high and high school teachers who were selected from across Japan to promote DRRE in their schools by learning DRRE based on the lessons learned from the experiences of the Great East Japan Earthquake in Kesenuma City. Dr. Oikawa Yukihiro, a board director of SEEDS Asia and professor of the University of Tokyo; Mr. Ueda Yasutaka, an advisor of SEEDS Asia and associate professor of Niigata University; and a SEEDS Asia staff member supported the programme. In the training, elementary school classes of DRRE conducted by the students from Kesenuma Municipal Hashikami Junior High School were observed. Participant commented, "I would like to follow DRRE in Kesenuma City which raise children who have great awareness of DRR." SEEDS Asia would like to express our sincere gratitude to AXA Life Insurance Co.,Ltd. and National Federation of UNESCO Associations in Japan for this opportunity.



Teachers -students discussion

### ●DRR Training towards Sustainable Development for Youth from ASEAN and India at IATSS



Group photo with participants

On 10th October, Ms. Mitsuko Otsuyama, Executive Director of SEEDS Asia took part as a lecturer for a training program organized by IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences) for selected youth from ASEAN member countries and India. It is common that people from overseas undergo training in Japan, try to utilize the learning in their own countries, and find it challenging in many ways. The session this time took into consideration such possible difficulties and incorporated in a workshop and introduction of actual practices based on the reality. It is hoped that the session was meaningful in making societies more sustainable, with a view of disaster risk reduction!

### ●Home Economics Seminar of Kansai Region Elementary Schools

On 25th October, the 49th Kyoto Convention of Home Economics Seminar of Kansai Region Elementary Schools was conducted at Kyoto Municipal Takakura Elementary School. Ms. Ranko Kishida, principal of the school who has paid a visit to Varanasi, India and Hinthada, Myanmar as an expert under the SEEDS Asia projects to deliver lectures on school management with community invited SEEDS Asia to this seminar. With this continuing relationship, Ms. Mitsuko Otsuyama and Ms. Yuko Nakagawa were invited as guest teachers to DRR incorporated in home economics class to assist the class of grade 6 themed "You all are precious in the community" and enjoy the class with students. In the class, based on the scenario: students and their families are at an evacuation center after an earthquake; students think about possible difficulties that can change depending on the timeline and how long they will stay, and had a group discussion as well as a presentation on what they can do in each situation. Advice and experiences were shared by government officials, organizations and DRR experts with students divided into six groups. Three essentials: 1. Prepare useful tools for the time of disasters 2. Think and take actions by oneself 3. Care for others, were led as conclusion by productive discussion. A teacher gave a question to wrap up the class "What can we start from today?" and many students answered, "It is good to greet community people every day to get along with them because we need to help each other at the evacuation center." The class was made possible with not only teachers but also the partnership with the community, and we would like to make this come true in our other project countries someday. SEEDS Asia would like to express our sincere appreciation to Ms. Ranko Kishida, principal of Takakura Elementary School for this great opportunity.

## Delivery Lectures

### ● JICA Technical Cooperation Project/Training on Thematic Issues Japan Visit

On 24th October, SEEDS Asia took a part as a lecturer at Japan Study Visit on JICA Technical Cooperation Project: “Project on Enhancing Community Resilience against Drought through Sustainable Natural Resources Management and Livelihood Diversification” coordinated by Nippon Koei Co., Ltd. Officials from Turkana County, north Kenya visited Japan to learn DRR initiatives to develop resilient communities against drought in their country, and SEEDS Asia was expected to share “community based DRR overseas”. At the training, Ms. Mitsuko Otsuyama, Executive Director of SEEDS Asia introduced a variety of DRR activities in Asia and their methods and the impact, as well as challenges which people in any country might face in common and their solutions through a participatory lecture. The person who organized this training said, “The idea provided by SEEDS Asia based on its initiatives: DRR is community’s responsibility was very new and informative for the people from Kenya who think DRR is their government’s responsibility.” Seeing community maps with a scale of 300 km drawn by participants was new to SEEDS Asia, as in Asian countries people are agriculture-bound without community long distances: while the participants of the training are from where people need to transfer 100s of km for hunting and getting water. While it was showing the complexity of community based DRR, it was interesting to learn that past disasters were transmitted through singings and dances from one generation to the next in these country as well, and it was a common habit as human beings: ancestors everywhere try to pass down the lessons learnt to the next generation.



During the class



Group photo with participants

Besides, on 30th October, a lecture under JICA training on thematic issues 2019 coordinated by Kobe International Center for Cooperation and Communication (KIC) and organized by Kobe Fire Bureau was conducted at JICA Kansai, and Ms. Mitsuko Otsuyama as a lecturer participated in the training. Lecture titled “COMMUNITY BASED DRR—RE-DISCOVER THE POWER OF CONNECTIVITY” was delivered to share the method to find out the problems and solutions through introducing basic essential tools which will be needed in community based DRR.

SEEDS Asia would like to appreciate Nippon Koei Co., Ltd. and KIC for these great opportunity.